

新宮山彦ぐるーぷ第2256回

持経宿、平治宿の巡回整備

◇実施日 10月1日(日) 曇時々晴

◇参加者 沖崎吉信、梶野照雄、湯川一郎 3名

村吉さんが9月25日に単独で持経宿に向かわれた。その前の入宿では池郷林道ゲートの1.9km先の崩土で道が塞がれて進入できなかつたが、今回は崩土を除去して、なんとか持経宿まで行こうと強い気構えで臨まれたようである。

崩土を除去して車の通過が出来るようになるまで4時間。単独での作業は苦勞されたことだろう。持経宿までは5時間近くかかったと思われる。

持経宿には到着したが、遅くなったので平治宿へは行けず、また予定していた作業もカットせざるを得なかつたようだ。

下山後に電話を頂き、池郷林道の状況報告を受けた。併せて持経宿小屋の状態もお聞きしたが、宿泊利用が多かつたようで玄関横のマキが少なくなつており、トイレの紙入れも一杯になつていた等の詳しい報告があつた。

9月6日以来持経・平治宿には行っていないので、訪問の必要性を感じこの日の実行となつた。

朝8時半過ぎ、スポーツ公園駐車場に集まつて持経宿に向かつた。村吉さんからのアドバイスもあり、中前君の軽トラックを借用して池郷林道を進む。ゲートまでは20分ほど、路面もいつもとほぼ同

じで、特に荒れたところは無かつた。問題はゲートの先だ。ゲートからすぐ上のいつも水流で荒れている箇所は更に轍が深くなり、タイヤが轍に入ると確実に底を擦る。ゆっくり慎重に通過する。以後、このようなところが4〜5カ所ある。森林管理事務所も当面手入れする様子もないので、今後は訪問の都度土嚢袋持参で修復したい。



村吉さん奮闘の跡

持経宿に到着

砂利を運ぶ

村吉さんが4時間かかつた崩土場所にやつてきた。石ころで埋まつたのかと思つていたが、ほぼ土で石は少ない。スコップを持参せよとのアドバイスに納得する。林道は2.5mほどの長さが完全に埋まっているが、車の幅の分の土が取り除かれ、通行可能になっている。取り除かれた土は1トンほどの分量がありそうだ。かなりの重労働だ。

以後も慎重に進み、約1時間で持経宿に着いた。

今日は梶野、湯川の2名で平治宿へ行ってもらい、沖崎が一人で持

経宿の作業に当たる。2名はすぐに平治宿に向かった。

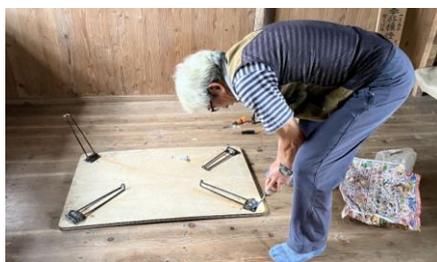
持経宿での作業は、持参したマキ10束をマキ小屋に収納、玄関横とストープ傍にマキを補充。小屋とお堂の清掃と整理。便槽の点検（汲み出しの必要は無かった）玄関前と屋根の掃除。志納金の回収、毛布8枚を洗濯のため持ち降ろし。と多様だったが移動距離が少ないため着実にこなすことが出来た。



マキを降ろす



平治宿に着く



テーブルの脚交換

お昼過ぎに2名が戻って3人で昼食を摂る。

食後、梶野君は水場点検に、沖崎、湯川の二人で屋根掃除の都築を行う。水場はホースから水が出ていなく、継ぎ目を外すと多量の泥が吹き出したようだ。上部の給水口にも枯葉や枝が詰まっております。定期的な掃除が必要のようだ。

午後1時半過ぎに持経宿を後にする。ゲート手前1.3km位来た所で後ろを走る梶野車のクラクションが聞こえた。パンクしたとすぐに判った。車を停めて梶野車まで駆けつけると、右前輪の交換が始

まっていた。7〜8分で交換は終了。他のタイヤを点検していた梶野君が左前輪もパンクしているのを見つけた。スペアタイヤは一本しかない。軽トラックのタイヤが使えないかと試してみたが、ホイールサイズが異なるので取り付けできない。



千年松お堂



屋根を掃除する



持経宿の水場

どうしたものかと暫く協議したが結論が出ず、パンクしたままゲートまで降りて、その後電話が通じる池原まで軽トラック一台で降りることとした。時速10km以下でゲートまで行き、ゲート前に車を停めて軽トラックに3人が乗りスポーツ公園駐車場に着く。

梶野君が新宮か池原で泊って明日タイヤを持ってくる、中前君に来てもらう、などの案が出たがいずれも複数日と複数人が必要となりしつくりこない。新宮でタイヤが調達できれば、タイヤを持って戻ってきてタイヤ交換が出来る。という案が有力となり新宮の尾崎タイヤに電話する。日曜日なので休業日の懸念もあったが、幸い営業中で午後5時までに来店してくださいと返事があった。



本日の参加者



枝を排除



タイヤ交換

梶野君には池原で待機してもらい、沖崎、湯川が新宮へ、途中中前宅に寄って軽トラックを返却、沖崎車で午後4時30分尾崎タイヤに着いた。タイヤ交換はすぐに終わり沖崎宅で湯川君は帰宅。沖崎一人で再び池原に向かう。午後6時にスポーツ公園に着くと待っていた梶野君が「早かったな、7時前になるかと思った」との言葉があった。二人でゲートまで向かいタイヤ交換してスポーツ公園に戻った。到着した時はまだ薄暗かったが、ゲート到着時にはすでに真っ暗。暗闇の村道石ヤ塔線を走行するのはめったにないので、カーブごとにスピードを落としてゆっくり走った。

2台とも無事スポーツ公園に到着し、それぞれ帰宅した。ヤレヤレの一日だった。こんなこともある、あったと肝に銘じるべきだ。

(記：沖崎)

【平治宿】

沖崎さんを持経宿に残し、平治宿に向かう。千年桧南にデポされている砂利の中から小粒の二袋をそれぞれ背負子に括って平治宿まで運ぶ。

先週とは打って変わって気温が低くなり、普通に歩くと汗は殆どかかないが、砂利の土嚢袋は重く、中又尾根分岐までの登りで大量の汗をかく。分岐のベンチでしばらく休んでいると半袖では少し寒さを感じる気温だ。

奥駈道には多数の枯枝が落ちていますが、大きい物はすべて排除した。平治宿に着き砂利を降ろして小屋に入る。湯川君は志納金の回収と小屋内の点検。私はトイレの屋根サイズを測る。その後小屋内のテーブルの足を交換する。固定できなかった足を行仙宿にあったものと交換したが、天板が反っているのでテーブルその物の交換が必要だ。非常食を点検した湯川君が残り少ないのを確認、縦走者が使ったと思われる。照明のスイッチを入れてみたが、点灯しない。携帯電話の充電器は動作しているようなので、バッテリーの電圧が10V以下になっているようだ。寿命と思われるので次回に対処したい。

30分ほどの滞在で持経宿に向かう。

持経宿で昼食後、水場を点検しその後下山、時速20km以下で進み、崩土箇所を過ぎた付近でタイヤの異音に気付く。窓から顔を出して除くと右前輪がへこんでいる。パンクしたようだ。クラクションで合図しタイヤ交換する。交換を終えて他のタイヤを見ると左前輪もパンクしていた。2本パンクしたのは3回目、一回目は大門さんに乗せて行ってもらい、翌日友人とタイヤを持って池原まで来て交換。2回目は青木さんが池峰の自動車屋さんでパンク修理してくれ

た。今回も沖崎、湯川のお二人の助けでどうにか帰ることが出来た。
ご迷惑をおかけしました。

池原で待っている間、カフェでコーヒーとケーキを頂き、きなりの湯のレストランでカレーを食べた。レストランが開くまでの間きなりの湯の建物内を見ていると「杉岡華邨記念館」と書かれた部屋を見つけ、入ってみた。本名を杉岡正美と言い下北山に生まれ文化勲章を受章した書道家らしい。奈良市に「杉岡華邨書道美術館」がある。

行動タイム

08:32 スポーツ公園駐車場→09:35 持経宿→10:53 平治宿 11:25
↓12:15 持経宿 13:30→14:35 池郷林道ゲート→14:55 スポーツ
公園駐車場



杉岡佳邨記念館



文化勲章



御名御璽

下北山村に文化勲章をもらった人がいることを初めて知った。なお
後日判ったことだが、この勲記用紙は湯川君の以前の職場で作られ
たものだ。

きなりの湯の温泉には何度も入ったが、この記念館は初めてで、こ
こを知り得たことはパンクのおかげかとも思った。

(記：梶野)